ドラマチックでなくていい。
自分らしく働くために。

大分県
中津市

This Is my Work!

地方で働く、地域で働く、その「仕事」と「ヒント」

大分県の北西端に位置する中津市。かつては旧豊前国にあたり福岡県北九州地方との結び付きが強く、特に旧上毛郡（こうげぐん）地域（福岡県豊前市、上毛町、吉富町）とは、古くは旧下毛郡（しもげぐん）と合わせて『三毛郡（みけのこおり）』というひとつの郡であったため、歴史的・文化的関係が今も続いています。

平成17年に、中津市に編入した旧下毛郡の「三光村」「本耶馬渓町」「耶馬渓町」「山国町」は、溶岩台地の浸食により形成された渓谷地帯。奇岩の連なる深く神秘的な地形は古くから伝説と祈りの場所となり、古来より人々は、ここの自然の造形美に魅せられ、神仏の信仰施設を建造し、洞門と石橋で道を通し、絵画や庭園でそれを表現しました。

僕たちは、ここ中津で暮らすことを選択しています。都会で暮らすこともできたけど、そうはならなかった。都会の生活を否定するつもりもないし、「地方を盛り上げたい。」なんて高尚な理由でもない。本当に偶然の連続だった。でも、振り返ればすべてが必然に思えてくるんです。

This Is *my* Work!

人生で仕事に費やす時間は多い。
働くことで他者とも触れ合い、相互の人生に影響し合う。
生活するために働き、働くことが生活になる。

では、どう働くのか？

社会が多様化していく中で、“働き方”に注目が集まっている。
ひとつの仕事をひたすら突き詰めるのか。
才能と時間をうまく使ってマルチに活動するのか。
目の前の現実を受け入れ、柔軟に働くのか。

相次ぐ自然災害を目の当たりにして、どこで働くかも重要だろう。
都会で働きたいのか。
地方で働きたいのか。
どうせなら育った故郷で働きたいのか。

いつか、その選択を迫られる瞬間が必ず訪れる。
もう少し先のことかもしれないし、今なのかもしれない。

その時、あなたは何を選びますか？

1 / 5

山本誠二

Seiji Yamamoto

【Car Service KING】

代表

中学一年生の時から車の整備士になりたいと思ってました。友達の兄が車の整備士をやってて、ツナギを着て機械をいじってる感じがすごくかっこよく見えて。車に興味を持ち始めたのもその頃から。もともと機械いじりは好きだったけどね。自転車のハンドルをカマキリにしたり、色塗ったり、荷台曲げたり（笑）。

機械的なことは、現場に入れば自ずと覚える。これからは電子制御の部分がどんどん増えてくるはずだから、目に見えない電気のことは学校できちんと理解しておいたほうがいい、と近所の車屋の方にアドバイスをもらい電気科へ。高校卒業後に整備の専門学校に進学したんですけどその時、高校時代に電気やっといてよかったとつくづく思いました。

運命を変えた「ランクル40」

豊前市にあるトヨペットのサブディーラーにまずは就職しました。現場は整備部門と板金部門に分かれていて、僕は整備部門でエンジンや足回りの整備を中心にしてました。

ある日、友達と四駆のレースを見に行ったんです。そこで四駆の迫力に圧倒されちゃって、一気に四駆の世界に魅き込まれました。ちょうどその頃、ボロボロの『トヨタ・ランドクルーザー40』の中古車が8万円で出てたんです。板金もやりたかったし会社の板金部門の同僚に教わりながら、そのランクル40を半年くらいかけてレストアしました。だんだん整備も板金も車のこと全般なんでもやりたいと思うようになり、なんとなく自分の店を持つことを意識し始めました。

その後、板金を本格的に学ぶために豊後高田市にあった板金塗装専門の店に転職。前の会社の社長が辞める時に「山本君、開業しようと思ってるよね。俺は32歳の時に開業したから32までに開業して、俺と同じ道に来い。」と言ってくれて、はっきりとした目標になりました。

転職先の店は四駆も得意にしている店で、四駆の仲間も増えました。高速のインターの計画が始まり、土地を含め開業のための諸々の準備もあったので、2年ちょっとで辞めることに。長くいると辞められなくなる雰囲気も漂っていた、というのもありますけど（笑）。

当初の予定は早まり、30歳で開業。四駆ばかりだと後々苦労するだろうなと思ってたので、なんでもできるよう準備を進めてきてたし、整備も板金も両方できる店ってそんなに多くなくて結果的によかったですね。それでも独立当初は四駆の仲間が周りに多い事もあり、自ずと四駆を中心に販売していました。周囲に車屋は多いんですけど、四駆は特殊な技術やノウハウが多くて、細かい整備ができる店がけっこう少ないんです。

国内の市場を守るために

国産の四駆って海外でも人気で、車体がけっこう国外に出て行っちゃってるんです。すでに生産を終了した車体もあるので、海外に流出しちゃうと国内の個体数が減ってしまって、市場価格が高騰しちゃう。四駆の愛好家も増えないし、僕らの業界にとってすごくマイナス。だから僕たちは四駆車を海外に出さないようにしようと決めていて、中には海外から逆輸入している仲間もいます。同時に、国内の四駆愛好者も増やしていきたいです。そのためには、僕ら世代が四駆で楽しい遊びを思いっきりして、楽しめる環境もしっかり整えていかないと。次世代の若い子たちが遊べなくなっちゃうのは、すごく寂しいじゃないですか。

僕の店としては、工場の移転に伴って数年前から新車も取り扱うようになりまして。というのも、四駆だけだと一般的に取っつきにくいだろうし、若い整備士たちの活躍の場も用意しておきたかったんです。今は20代の子が正社員として一緒に働いてくれています。僕みたいに好きで整備をやってるっていう人が減ってきて、一般的なディーラーに行っても部品交換ばかり。部品交換してダメならこの車はもうダメですね。みたいなことが平気で起こっていて、そこで買い替えちゃう人も多い。直らないものって本当は無いはずなんですけどね。やっぱり好きじゃないと一定のレベルから上には上達しないですから。

お財布に優しい車検か 車に優しい車検か

今の僕らの生活って、車が絶対必要ですよね。だけど無茶して乗ってる人ってけっこう多いんです。車も消耗品だから安く抑えたい気持ちもわかるけど、長く乗るのなら定期的にメンテナンスして大事に乗ることが一番安上がり。無茶して乗ってたら結局もっとお金かかることになりますから。その点、ランクル乗りの人なんかは一生乗るつもりだから大事に乗ってます。

物の価値観や扱い方もどんどん多様化してきて、その物をどう大事にするのが正しいかって一概に言えないですけど、この仕事をやっていて気づかされることは多いです

やりたいことがすぐに無くても、将来一人でもやっていけそうな職種を選んでおくのはアリかなと思います。割り切って趣味のために仕事をするのもいいだろうし、そこから趣味の方に仕事を変える人だってたくさんいる。働き方がどんどん多様化してきて、副業が当たり前になってますし。

自分も整備士になりたいと思っていたけど、独立というビジョンは無かった。整備士をやりながら芽生えたし、続ける中で好きな分野や得意な分野が出てきた。そこで勝負したいと思うようにもなった。だから、四駆専門に持って行ってみようかなとも思ったりします。「やっぱ四駆やな…」っていう気持ちはありますよ。どこかにね。

Car Service KING
大分県中津市三光森山５４８
0979-43-5152
09:00～19:00　定休日：第１／第３日曜

2 / 5

松木伸代

Nobuyo Matsuki

【Pasta & Pizza 501】

代表

英語を使うような仕事がしたかったんですけど、短大を卒業する時に就職難だったこともあり、希望する仕事になかなか就けませんでした。たまたまパートで入ったガソリンスタンドの仕事が楽しくて、整備士になろうかなとも考えましたけど体力的に断念。その頃から料理をするのは好きでしたが、料理を仕事にするというのはなんとなく敬遠してました。

両親の紹介で、建設業の労働組合に事務職として転職したんですけど自分の頭ではついていけない仕事が増えてきちゃって、そろそろ限界かなと（笑）。人間関係はすごくよかったので楽しかったんですけどね。

その頃から、中津市内にあるパスタとピザのお店『ダクゥイ』によく通ってたんです。ハマったっていうのがはじめてで、毎週のように通って全メニュー食べました。ちょうどダクゥイでスタッフを募集してて、オーナーとも顔見知りになっていたし、そのまま飛び込みました。

ダクゥイで現場経験を重ねて、試験を受けて調理師免許も取得。とにかく楽しくて、料理が天職だと思いました。ダクゥイで働き始めて4年後に、三光村にあった店で6年間、店長をやらせてもらいました。

三光店で店長をやっていて、5年目くらいから自分の店を出したいと思い始めてたんです。『501』という店の名前がパッと頭に浮かんで（私の誕生日なんですけどね）、ダクゥイの店長をしながら休日には知り合いの店で場所を借りて、「501」の名前で出店をすることもありました。ダクゥイのオーナーもそんなことなら、ということでそのまま三光店を譲ってもらい、めちゃくちゃいい条件でトントン拍子に独立しました。ダクゥイのオーナーは今でも師匠ですね。ダクゥイ時代のメニューも残して、人気だったドレッシングもそのまま売らせてもらってます。「501」になってからは、ドリンクバーを辞め、ピザの種類を増やしました。地元の食材や季節の旬な野菜にもこだわっています。

ありがたいことに県内外から「501」に食べに来てくれます。現在5〜6名がシフトを決めて回してくれてます。ただ、自分に何かあった時のためにも、誰かに任せられる体制をつくっておかないとなと最近思います。働いているスタッフからも「松木さんが倒れたら、どうしたらいいですか？」と聞かれるので。

料理をするのも、食べるのも好きですね。美味しい料理を作って、食べてもらって喜んでくれる、本当にそれだけで充分。だけど、スタッフのお給料のこととか、生活していこうと思うと当然そういうわけにもいかなくて。だから、今いろんな巡り合わせで、うまくいっている目の前の現状を大切にしつつ、次のステップに進む準備もしています。料理という好きな部分と、その環境を守るためのリアルな部分ってけっこう違うんですよね。自分の好きなことを仕事にできて、天職とさえ思いました。とにかく楽しくて夢が叶ったんですけど、それはそれで色々と難しいこともあったり、すぐに新しい目標ができたり、終わりって無いんだろうなと。

今のお店のキャパは少し大きくて厨房で料理をつくるだけで終わってしまうこともたくさんあります。誰が来てるのかもわからなくて、自分と一度も顔を合わせることなく、帰ってしまうお客さんもいるんです。なんかすごく申し訳なくて…。直接お客さんと接して、お見送りもしたい。そんな中で、来てくれたお客さんといい関係が築いていけると最高です。

中津の飲食店も入れ替わりがけっこう多いですけど、長く続いてる店は、料理も美味しくて人柄も良い。それは顔が広いとか人付き合いがいいとかそういうことでもなくて、それぞれのお店で、いらっしゃるお客さんといい関係が築けてるんだと思います。

Pasta & Pizza 501
大分県中津市三光土田199
0979-43-6700
昼　11:00～（14:30：オーダーストップ）
夜　17:00～（20:30：オーダーストップ）
定休日：木曜日

3 / 5

苅北隆義

Takayoshi Karikita

【(有)苅北林業】

きっかけは何も知らないということを知ったこと

学生の頃は、家業の林業を継ぐ気は全然無いのに、地元のおじさん達は「将来は継がんとな。」って言ってたんですよね。それが嫌で、地元の高校卒業して大分を出ました。

静岡の製紙会社に就職して、マクドナルドの包み紙のような耐油性の紙をつくるメーカーで1年働きました。そこで紙の原料であるパルプ材が『木』からできてることを改めて認識しました。中には、土木・建築などの用材になる良い木材もけっこうあって、これはもったいないよなと。それに実家では家業として木を扱う林業をしているのに、僕は木のことを全然知らなかった。家業の林業へ意識が芽生え始めたのもその頃でしたね。

その後、大分に帰ってきたんですけど、それでもすぐに林業の仕事はしませんでした。もう少し他所で働いたほうがいいかなと思って。3年ちょっと運送屋で働いた後、地元の森林組合で4年間働きました。休みの日は家業の現場にも出たりして、業界について学びました。

「木」という長いサイクルの中で

本格的に家業を始めて、現在2年目。苅北林業の業務としては、素材生産から搬出まで。そこからは市場まで運んでもらい入札されます。中には『名木』と呼ばれるものもあり市場で毎年開かれる記念市に出荷されます。木の伐採は50年に1回。お米や野菜みたいに、毎年収穫があって改良されていくというものではない。害獣被害も悩みのたねで、木を痛めつけられる原因になります。苗を食べられたり、ツノで傷つけられたり。他にも冬の凍結による膨張・収縮で割れたり、風で傷んだり、地面が崩れて根元が曲がったり。木の肌を見てある程度の良し悪しはわかりますけど、外から見えない部分が傷んでいたり、切ってみないとわからないものもたくさんあります。なので木を切る時は、そこまで育ててくれた人に本当に感謝します。今切っている木も何十年も昔に植えられたもので、木の一本一本に何十年もの歴史がある。自分が産まれるもっと前からある木を雑には扱えないです。

伐採期間を考えると、一つの現場に次に戻ってくるのは約50年後ということになります。僕が今27歳

(有)苅北林業
大分県中津市山国町平小野８００－３
0979-62-2285

なので、今やっている現場に戻ってくるのは70歳以降。その時、自分はまだ林業をやってるのかわからないので、そう考えるとひとつひとつの現場が面白いし大切ですね。一つとして同じ地形、同じ木、同じ現場は無いので。

僕たちが使う山の作業道は、あくまで人為的に入れたもの。災害なんかで作業道が崩れる事もあるんですけど、山からしたら「いや君達が最初に壊したんでしょ。」と言いたくなるだろうなと。元の状態が一番「自然」な状態なんですから。自然はただ元の状態に戻ろうとしているだけ。もちろん作業道は崩れない方がいいですけど、自然の力に僕たちが抗うことはできないですね。

柔軟な働き方は いわゆる中山間地域にこそ有効

昔に比べて木の価格はかなり安くなっています。今後、国内の人口が減少していく中で、木の需要がどうなるのかはわかりません。木より丈夫で便利な資材や代替え品がどんどん出てきているので、かつてのような建築資材としての需要は期待できない。最近では、薪ストーブの薪に使ったり、アロマエキスを抽出したり、木の価値が再認識されています。僕たちの生活の中で、うまくバランスを取りながら多岐にわたって木を利用できるのが理想的です。

林業の担い手は、減ってはいないけど増えてもいない。間違いなく高齢化はしていってるので、どこかで一気に減るでしょう。仕事がどんどん多様化していってる中で、林業は若い人からさらに選ばれなくなってるんじゃないかな。機械化がどんどん進んで、素材生産の量も多くなってきてますけど、それでもまだ人手は足りてません。仕事はあるのに人がいない。林業の現場は今、そういう状態です。

東京オリンピック時の混雑に備えて、情報通信技術を活用した場所や時間にとらわれない柔軟な働き方が勧められているけれど、場所を選ばずにできるということは、田舎でも都市でもできますよね。特に中山間地と呼ばれる場所において、人を定着・定住させるには「ここでしかできない。ここだからできる。」働く理由が、その場所である必要性が重要で、林業のような目の前に現場がある仕事こそ地方の定着・定住に直接つながる鍵になると思うんです。地方から都市に出た人っていうのは、もともと中山間地に実家があるケースも多い。働き方がこれだけ多様化してきている中で、中山間地での定着を考えるのなら、仕事を組み合わせて「○○×林業」は一つの模範解答なんじゃないかなと思います。

林業は、日が昇ったら仕事して日が沈むとともに仕事も終える。悪天候の日は危ないので、現場はお休みして家の仕事をする。ごく当たり前のことなんですけど、気持ちが良いですね。うまくいかないこともたくさんあるけど、どうしようもないことがほとんどなのでそれすらも心地よいです。自然の中で生かされてる感を日々感じます。山菜を採ったり野いちごを食べたり。そういう生活って当たり前なんだけど、すごく尊いものになっていて、だからこそ今、必要だなと思います。

お客さんが絶えず訪れる
町の台所。

4 / 5

川口 翼

Tsubasa Kawaguchi

【フードショップ川口屋】
代表

２０歳前後はフリーターで、いろいろやりました。ほんと何にも考えてなくて。２２歳の時に名古屋へに行って、たまたま買い物に行ったファッションビルの店舗でスタッフの募集をしていて「働いてみる？」ってことでそのままスタッフに。最初は栄のサンシャインビルに入っていました。今のところ人生で、アパレルにいた期間が一番長いかな。若者向けのアパレルブランドで、店長やってた期間も入れて９年間働きました。それなりに売れてはいたけど、業界全体としては落ち始めていました。ファッション業界は「高いか」「安いか」に二極化してきていて、今後もそれは進むと思います。例えば、手頃な価格帯で集客力のあるイオン系のラインナップは伸びてますよね。一方で、僕が入っていたようなファッションビルとなると、そもそも集客量に限界があります。ターゲットにしていた２０代の若者もファッションにお金を使わなくなってたので、自店舗をはじめとする中間層狙いの店は危ないかなと。それでもアパレルで食べていく選択肢もあったんですが「後悔があったら悪いな。」と実家の店のことが心の何処かにあって、店をするとこまでは考えてなくても意識はしていました。

一番は、後悔したくなかった。

結婚して子供ができて、嫁さんも元々中津の人だったし、帰ることを決めました。

実家のあるいわゆる中山間地では後継者不足で店をたたむところが増えていて、帰って来てそういう状況を目の当たりにした時「それなら、逆にやれるかな。」と思いました。そこに賭けるしかない。ちょっと苦しくても最終的に生き残れば、きっと町がなんらかの選択をするだろうと。自分がやらずに諦めて、実家の店も他の店と同じようにたたむことになってしまったら、すごく後悔する。一回やってみて、ダメだったら名古屋に戻ればいいやと思って、家業を継ぐことにしました。まだまだ苦しいけどね。

最初の一年半は、中津市内のスーパーで働きました。ほんとに何も知らなかったので、技術も市場のことも勉強になりました。元々、レタスとキャベツの区別もつかなかったくらいですからね（笑）。

うちみたいな小売店って「待つ商売」って思われることが多いけど、きちんと販促を打ち出してお客さんを集めてるって考えたら「攻める商売」になるんです。移動販売のような行商は、攻めてるように見えるけど、一歩間違えると感謝されなくなる危険性がある。当然はじめは感謝されるんだけど、慣れてくると不思議とだんだん押し売りされてる気分にもなる。来てくれてるから買わなきゃ気の毒だ、とかね。

例えば店舗を構えて、いい魚を並べてると、買いに来たお客さんはまず「いい魚があったから買おう。」ってなる。それが続くと、だんだん「あそこに行くといいのが買えるから。」とお客さんの心理が変わって行動も変わってくるんです。

宅配もするし保育園の給食に納めたりもしますけど、来てくれるお客さんを大事にできることが一番大切でして。帰ってきてここをやり始めた時は、とにかく営業に行って業務用で納める場所つくっていけばいいと思ってたけど、今は違うと思ってます。うちみたいな田舎の店でも一日１００人来るんです。一人が１０００円使ったとして、売り上げは１０万円。１ヶ月で３００万。そういう具体的なとこを目標にやっていくと徐々にそうなっていくんです。

「若い人がやり始めて変わった。」っていうのは一つのきっかけで、それは安売りっていうわけじゃない。うちでは物の質を全体的に上げ、それなりに結果が付いてきてます。まだまだ途中ですけど、続けてきてお客さんの数も変わったし、使う金額も変わってきました。金曜日に販促企画をして集客すると、だんだん平日のお客さんも増えてきました。そうやってひとつひとつ作戦立てて結果がついてくるとやっぱり嬉しいじゃないですか。

人口が減少しているエリアでも、まだまだ市場はある。お客さんが必要としている時に、必要な物を用意しておけば、当たり前だけど売れます。田舎って、自分のとこだけがいいっていうのはナンセンスで、競争じゃないんですよ。やっぱり共存なんです。

フードショップ 川口屋
大分県中津市本耶馬渓町跡田４９７－２
0979-52-2624
09:00～19:00　定休日：無休

１００年続く酒屋。ここであり続けるために。

5 / 5

台 亮嗣

Ryoji Dai

【三福屋 台酒店】

大学生の頃、美容室で何気なく読んでいた雑誌で、アーティストやプロデューサーが集まり、様々な社会課題の解決をクリエイティブな視点で試みるという特集が組まれていました。取り壊した家屋の廃材を使ってインスタレーションをしたり、エアバッグやシートベルトでカバンを造ったり。デザインに興味を持ち始めてて環境問題にも関心があった僕は「これだ！」と思いました。特にやりたいこともなく、ただただ都会に出たい一心で受験した都内の大学入試に失敗した僕は当時、福井県の大学に通っていたのですが、その頃から都市と地方の関係を意識するようになりました。いつかは故郷に帰ることもこの頃から選択肢になっていましたね。

大学卒業後、廃棄された食品から肥料を作る食品リサイクル事業を展開する名古屋市の会社に就職しました。工場に勤務し、名古屋市中から集められた事業系の食品廃棄物、コンビニや飲食店、市場などの生ゴミを分別するのが新人の主な業務でした。衝撃だったのは毎日集められる生ゴミの量。１日に１００t近くの生ゴミが搬入され、その多くは賞味期限が近くなった商品や売れ残った野菜など。まだ食べられるものがほとんどで、日本の食品ロスの実態を見せつけられました。リサイクルといえば聞こえはいいものの、消費そのもののあり方にまず問題があると感じました。同時に、このままここにいてはいけないと一年足らずで転職を決めました。

近い将来、地元に帰ったとしてもサラリーマンになるつもりは無かったので、一人でも仕事ができる必要がありました。名古屋の夜の繁華街をターゲットにした装飾事業を展開する会社に転職し、キャバクラやラウンジ、ホストクラブを相手に仕事をしていました。シャンパンタワーの設置なんかもしていて、名古屋の繁華街で億を稼ぐ有名キャバ嬢のバースデーでも何度か仕事しました。社員も少なくガンガン仕事を任せてくれたので楽しかったし勉強になりました。どこでもやれる手応えもあったので、お金を貯めて2年で名古屋を去りました。

おもしろく、正しく。

帰ってきても「すぐに酒屋を。」とはならなかったんです。酒の勉強なんて全くやってなかったし興味も無かった。日本酒と焼酎の違いも知らなかったくらいです。名古屋の装飾業は基本的にリースでやっていて1回の仕事で10万〜20万丸儲けが当たり前だったので、利益率の低い小売業に絶望すらしてました。名古屋では、ほとんど一人で仕事をやっていた時期もあったし、博多や北九州の街で短時間にまとめて稼いで残りの時間は田舎でゆっくり暮らそうとか思ってました。

時間もあったし暇だったので計画は保留にして、まずはなんとなく古臭かった実家の酒屋の雰囲気を極力お金をかけずに変え始めました。ちょうど母の実家にあった古い蔵を壊す話があったので、そこから使えそうな材料をもらってきて活用しました。

メーカーや卸屋など業界関係者ともだんだん顔見知りになっていき、いつの間にか台酒店はどうあるべきかを考えるようになりました。周りの有名な酒屋は、自ら蔵を巡り全国から銘酒を取り揃えていました。単純にすごいなとは思いましたけど、僕はしっくり来なかった。その店がその場所にある必然性みたいなものが薄れているように僕には見えたんです。長崎に行ったらカステラを買うし、京都に行けば八つ橋を買いますよね。「現地に行かないと無い。現地にこそリアルがある。」それがローカルのおもしろさだし、ある種の正しさだと思うんです。酒業界も流行の移り変わりが激しい業界ですが、みんながそれに引っ張られるのは危険。うちの店は100年近く変わらずここで酒屋として続いています。だからこそぶれちゃいけない。

なりゆきで家業の酒屋をやってますが、すごく楽しい。都会で稼いでた時もそれなりに楽しかったんですけど、それ以上のことを求めた時、地元の田舎は色々と都合がよかったんです。代々受け継いだ土地があって、家業があって、コミュニティーがある。僕の場合、それがすごくアドバンテージになってます。

田舎に住んで商売をやっていると改めて社会課題の深刻さを切実に感じます。このままじゃまずい、と思うことが多々あります。何不自由なくここで暮らしてきた以上、目の前の現状を黙って見過ごすわけにはいかない。課題があるということはそれだけチャンスがあるということ。ここで起きていることが日本全国で起こっています。だから今、地方がおもしろい。色んな人たちとそこに向かって、仕掛けてみたいですね。

三福屋 台酒店
大分県中津市耶馬溪町三尾母4－1
0979-54-2117
7:00〜21:00　不定休

This Is my Work!

「仕事が遊びに、遊びが仕事に。」

きっと誰もが憧れる「仕事と遊びが同化した毎日」。好きなことや、やってみたいことはたくさんあるけれど、それがはたして仕事になるのか…。脱サラしてやりたいことを仕事にできる人ももちろんいますが、自分が何をやりたいかなんて、そもそもわからない人の方が多いんじゃないかなと思います。

テレビや雑誌、ネットで取り上げられる人はすごい人達ばかりで、つい自分と比べてしまう…。では、やりたいことが無い人、やりたいことを仕事にできない人の人生は不幸なのか。決してそんなことはないはず。

要は気の持ちようで、興味のないことでも、色々やってるうちに遊びになってるんです。僕の場合、興味のなかったお酒も自分なりに関わっていると、いつの間にかおもしろくなっていました。お酒を飲むのも好きになったし、今ではもうほとんど遊びですよ。その逆も言えて、遊んでたらいつの間にか仕事になってるんです。興味のあったデザインの仕事も、自分なりに活用して、今では酒屋以外のところでもカタチになり始めています。

今回、なるべく気どらずに等身大の自分達を紹介したいと思い、タイトルを『This Is my Work』と名付けました。メンバーも取材を快く引き受けてくれその中で印象的だったのは、誰もが楽しそうに仕事の話をしていたこと、そしてとても堂々としていたことでした。

田舎でも楽しく自由に暮らせる。胸を張って、前向きに生活できれば、それはきっと正しい。誰かを勇気づけるきっかけになればと思い、この冊子の作製を進めてきましたが、まずはじめに勇気づけられたのは僕自身でした。そして僕たちの狙い通りに、この『This Is my Work』が誰かの背中をそっと押してくれることを願っています。

今回、残念ながら紹介できなかった
中津市しもげ商工会青年部の事業所一覧

【林業・農業・畜産業】
竹田ロープウェイ
中村梅園
結農園
㈲夢列車
㈱梶原畜産

【建設・建築業】
㈱インテリア宇木
㈱エッジライフ
北村住建㈲
㈱久保組
瀬戸間工務店
㈱ティティエヌ
㈱トップホーム
中一建設㈲
中山石材店
㈲日豊
藤永硝子店
㈲松葉建設
㈲ワークス

【製造業】
大分精密工業㈱
㈲お茶の川谷園
ダイハツ九州㈱
竹折工作所
㈱耶馬渓ライフ

【金融機関・郵便局】
㈱大分銀行洞門支店
大分県信用組合耶馬渓支店
中摩郵便局
真坂郵便局

【サービス業】
あすなる学舎
九州電気サービス
㈲五昭
㈱SamiSamiラボ
トップワールド㈱
中岩建築設計事務所
レアナル

【自動車整備業】
カーファクトリー T's
平原自動車

【美容業】
asile空
cutroom COCOA

【卸売業・小売業】
㈲宮瀬建材店
長尾プロパン

【飲食業】
居酒屋 夢ちゃ喰ちゃ
ザ・めしや
食彩房 筍

【旅館業・観光業】
お宿三交軒
耶馬渓観光開発㈱

2020年2月 発行

発行 中津市しもげ商工会
〒871-0405
大分県中津市耶馬渓町大字柿坂102番地1
TEL：0979-54-2073
FAX：0979-54-3146
E-mail：info@shimoge.oita-shokokai.or.jp

編集・デザイン 台 亮嗣

協力 中津市しもげ商工会青年部
商工会青年部は、地元企業の後継者・若手経営者などで構成された団体で、
地域づくりや経営力向上などの活動を行なっています。

IMPULSE